2.C.1.c 鉄鋼製造（直接還元鉄製造）
（Iron and Steel Production－Direct Reduced Iron Production）（CO_2, CH_4）

１．排出・吸収源の概要

１.１ 排出・吸収源の対象及び温室効果ガス排出メカニズム

直接還元鉄は、通常電気炉用の鉄スクラップの代替品や高炉製鉄用の原料として使用される。非常に再酸化しやすく、そのままでは発熱・発火の恐れがあるため、貯蔵・輸送時にはブリケット化（圧縮・成型）した HBI（Hot Briquetted Iron）が用いられる。主として天然ガスや石炭等を還元剤として固体状態の鉄鉱石を 1,000℃で直接還元することにより製造され、還元剤の酸化に伴い CO_2 が排出される。この際、併せて CH_4 も排出される。

なお、我が国では直接還元鉄の生産実績がないことから、本排出源については「NO（該当する排出活動が存在しない）」として報告している。

１.２ 排出・吸収トレンド及びその要因

記載事項なし。

２．排出・吸収量算定方法

記載事項なし。

３．算定方法の時系列変更・改善経緯

表 1　初期割当量報告書（2006 年提出）以降の算定方法等の改訂経緯概要

	初期割当量報告書（2006 年提出）	2015 年提出
排出・吸収量算定式	未計上	新規に NO として報告。
排出係数	未計上	－
活動量	未計上	－

（１）初期割当量報告書における算定方法

2006 年 IPCC ガイドラインから新たに追加された排出源であり、初期割当量報告書では算定対象とされていなかった。

（２）2015 年提出インベントリにおける算定方法

新たに 2006 年 IPCC ガイドラインのカテゴリー区分が適用されたことにより、「NO（該当する排出活動が存在しない）」として報告することとなった。